

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第 57 号

2009 年 10 月 20 日

<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/s-yuga/asaj2/>

オーストラリア学会 20 周年の節目を迎えて

代表理事 関根政美

2009 年 6 月の全国研究大会は盛況のうちに無事開催できました。代表理事として関係者の皆様に御礼申し上げます。とりわけ学会全国研究大会開催校の青山学院大学菊池努会員と、杏林大学橋本雄太郎理事には御礼申し上げます。また、お手伝いの方々の皆様にも御礼申し上げます。

オーストラリア学会は今年で 20 周年という節目を迎えました。第 1 回の全国研究大会が東京大学駒場キャンパスで開催されたのは 1989 年です。このたびは 20 周年を記念してマレー・マクレーン大使閣下の講演を開催できました。日本における対オーストラリア理解の質的向上のために当学会が重要な役割を果たしているとお話に大いに励まされました。ありがとうございます。

そして、オーストラリア学会結成当時を振り返り、あらためて学会の基本を確認するため、大会 1 日目のシンポジウムでは、歴代代表理事にご参集いただきご報告をお願いしました。池間誠、遠山嘉博、渡邊昭夫、谷内達各元・前代表理事の皆様からの報告を伺い、80 年代中頃の学会設立前夜からその後の動きを回顧できたことは、今後の学会活動にも大いに資するところがあるでしょう。

また、第 2 日目午前中の個別報告をされた皆様、第 2 日目午後のシンポジウム仕掛け人の加賀爪優理事と登壇者の皆様に各々御礼申し上げます。1 日目も第 2 日目も多くの会員が参集されました。ありがたいことです。

なお、今回の総会において、学会事務関連業務の ACNet への外部委託と、20 年間据え置かれていた学会費の値上げが決まりました。近年、学会活動量が増えたこともあり、全国大会支援体制の強化、学会業務理事負担の軽減が目的です。ご了承いただき、ありがとうございます。

最後に、今回の大会にも豪日交流基金の支援があったことを記して感謝いたします。

なお、次の全国大会までの準備や学会誌刊行、ニュースレター作成、新 Web サイト作成、大学院公開講義・シンポジウム等準備、会計・名簿整理など理事の皆様はお忙しいことと思います。よろしく申し上げます。

1. 2009 年度総会・全国研究大会が 6 月 13 日(土)および 14 日(日)に青山学院大学青山キャンパスで開催されました。多大なご協力をいただきました青山学院大学の菊池努会員、同大学のスタッフの方々、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げます。

2. 総会報告 (2009 年 6 月 14 日開催)

(1) 2008 年度事業報告・決算報告

下記の事業報告が決算報告及び監査報告とともに承認されました。また、監事担当の岡崎一浩会員が退会したことに伴う後任人事に関して、理事会に一任することが承認されました。

第 19 回全国研究大会 (2008 年 6 月) を追手門学院大学にて開催

地域研究会は、関西例会 (第 7 回: 2008 年 11 月、第 8 回: 2009 年 3 月) を追手門学院大学において開催

AJF 助成大学院プログラムとして 2008 年度秋学期に日本大学で、2009 年度春学期に同志社大学で特別講義を開催

『オーストラリア研究』第 22 号 (2009 年 3 月) を発行

『オーストラリア学会報』第 54 号、第 55 号、第 56 号を発行

学会メールマガジン発行を開始

第 7 期第 3 回および第 4 回理事会を開催

(2) 2009 年度事業計画・予算案

下記の事業計画が予算案と共に承認されました。

『オーストラリア研究』第 23 号 (2010 年 3 月) を発行する。(会報 56 号参照)

『オーストラリア学会報』(年 3 回程度) を発行する。

第 21 回全国研究大会 (2010 年 6 月) の担当校を募集する。(締切 8 月上旬)

地域研究会関東例会を秋季に、関西例会を 11 月と 3 月に開催する。

学会 Web サイトをリニューアルする。

会計担当よりお詫び

本来であれば、同時に会計書類を掲載すべきところではございますが、財務諸表の計算式に一部誤りがみつけられましたので、現在、精査しております。記してお詫び申し上げますとともに、正しい財務諸表をあらためまして掲載できるよう努めてまいりますので、よろしくご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(3) 会費値上げについて

関根代表理事より、学会活動の拡大に伴う運営委員、地域研究会担当者および会計理事の業務負担増加を軽減するために、2009 年 4 月より ACNet に学会業務委託を開始した旨、報告がありました(次頁 4 参照)。このような業務拡大の他に、印刷経費・全国大会補助金などの拡大が今後予想されること、業務外部委託費の財源確保などを考慮した結果、初年度から 20 年間値上げされてこなかった学会年会費 5,000 円を、2010 年度から一般会員年会費 8,000 円に値上げする一方、新たに院生(PD 含む)年会費を設け、その会費は 5,000 円に据え置くことで、今後とも学会活動を活発化し、充実させたい旨の提案がなされ、了承されました。

(4) AJF 助成大学院プログラム

秋学期は国立民族学博物館(担当: 松山利夫会員)、春学期は上智大学(担当: 鈴木雄雅理事)で行われる予定であることが紹介されました。また今後の担当希望校の募集告知がされました。

3. 第7期第4回理事会報告(2009年6月13日、14日)

2. の総会議事以外に、下記の事項につき承認されました。

- (1) 2009年1月に運営委員会が開催され、ACNetへの業務外部委託について検討した。
- (2) 予定されていた学会Webサイトの更新作業は、業務外部委託に伴いACNetへ移行する。
- (3) 紀要への投稿およびバックナンバーの販売は、業務外部委託に伴いACNetを連絡先にする。
- (4) 理事・監事の任命方法の改善について、次回の理事会で検討する。
- (5) 新規入会11名を承認する。

出席者 = 関根政美(代表理事)、有満保江、安藤充、飯笹佐代子、加賀爪優、加藤めぐみ、鎌田真弓、川口章、小林信一、塩原良和、鈴木雄雅、田澤佳昭、永野隆行、橋本雄太郎、藤川隆男、松繁寿和、南出眞助、村上雄一、安田純子(以上、50音順)

8月1日に運営委員会が開催され、学会活動に係るAJFの助成金、ACNetへの業務委託、ならびに学会Webサイトの更新等について検討されました。

2007年12月 2010年12月役員一覧

[代表理事] 関根政美

[副代表理事(企画)] 鎌田真弓

[全国研究大会担当理事] 藤川隆男、南出眞助

[プロジェクト担当理事] 関根政美、有満保江

加賀爪 優、永野隆行

[関東例会担当理事] 関根政美、塩原良和

永野隆行

[関西例会担当理事] 南出眞助、藤川隆男

松繁寿和

[副代表理事(総務)] 橋本雄太郎

[庶務担当理事] 村上雄一、塩原良和

[会計担当理事] 田澤佳昭

[広報担当理事] 橋本雄太郎

[副代表理事(編集)] 小林信一

[学会誌担当理事] 加藤めぐみ、有満保江

安藤 充、飯笹佐代子

川口 章、安田純子

[会報担当理事] 田澤佳昭、塩原良和

[HP担当理事] 安藤 充、鈴木雄雅

[監事] 岡崎一浩(2009年5月まで) 有満保江

[運営委員会] 代表理事・副代表理事・
会計担当理事にて構成

4. 学会業務の外部委託について

副代表理事(総務) 橋本雄太郎

本学会も設立後20年を経過し、創立当初の頃に比べると、事務処理量が質・量とも増加しました。その要因は、AJF 助成事業に代表されるように、学会活動の活発化によるものです。その結果、理事が片手間に処理する内容ではなくなりました。今後学会業務をどのように処理していくかを悩んでいた折に、非営利法人 ACNet から、本学会のような小規模な組織でも業務委託を引き受けるといった話があり、他の同様委託業者と比較検討した上で、ACNet に業務委託する方針を理事会で決定し、準備作業に入りました。これまで事務局で扱っていた業務のうち、入会・退会、名簿管理、会費納入状況管理、帳簿管理・会計報告書作成、会計監査、会報・紀要発送、大会参加確認、紀要原稿の入稿・整理等を委託することになり、守秘義務及び業務委託契約を締結しました。契約は1年更新で、毎年見直しが行われます。この外部委託については6月の総会で承認されました。なお、事務局の所在地はこれまで通りで、上記業務内容の連絡先・届け出先のみが「ACNet オーストラリア学会担当」に変更になります。会員各位との窓口は、ACNet に変更されることとなります。また、金銭そのものはACNet としては一切扱わず、学会会計担当理事がこれまで通り管理します。会費の納入先も変わりません。ACNet は帳簿管理の代行業務のみ行います。

5. 豪日交流基金助成国立民族学博物館大学院特別公開講義「アイヌとアボリジナルのいま」
オーストラリア学会では、豪日交流基金の助成を受け、国立民族学博物館との共催で以下のとおり大学院特別公開講義を開催します。多数の会員の参加をお待ちしています。

日 時：2009年11月28日（土）11：00～17：40

場 所：国立民族学博物館 講堂

講 師：貝澤 耕一／秋辺 日出男（北海道アイヌ協会）

佐々木 利和（国立民族学博物館）

Nicolas Peterson（オーストラリア国立大学）ほか1名

内 容：オーストラリアと日本の先住民（族）がおかれている現在の法的な状況や環境管理をめぐる問題について、当事者からのそして研究者からの講義をとおして理解を深める。

入場は無料です。非会員の方も参加できます。



6. 第9回地域研究会（関西）のお知らせ

* 非会員の方も参加できます。

日 時：2009年11月21日（土）14：00～17：00

場 所：茨木市西安威2-1-15 追手門学院大学5号館8階 大会議室

連絡先：追手門学院大学オーストラリア研究所 Tel：072-641-9667 FAX：072-643-9476

E-mail：cas@office.otemon.ac.jp URL：http://www.otemon.ac.jp/cas/

交 通：JR 茨木駅西口南へ7分「マイカル茨木」横、または阪急茨木市駅西口から
追手門学院スクールバス（無料）13：30 発

報 告：

「オーストラリアの言語政策の展開 多文化社会に求められる言語教育をめぐって」

松田陽子（兵庫県立大学）

【要旨】本発表では、1980年代以降に次々と策定されたオーストラリアの4つの国家レベルの言語政策をとりあげ、特に、多言語教育を推進する政策に焦点を当てる。各々の社会背景によって、英語教育重視が焦点化されたり、また、アジア言語重視が強化されたり、異文化間言語教育が注目されたりしてきている中で、これらの言語政策策定プロセスに関わってきた人々の力や社会の動き、多文化主義についての意識の変容との関わりを考える。そして、それらの政策の展開の中で意図されてきたことや、言語教育のパラダイムシフトの萌芽について考察する。

「シドニーの都市再開発にみる多文化表象」

吉田道代（摂南大学）

【要旨】第二次世界大戦後、オーストラリアでは移民の出身国の範囲が広がり、シドニーやメルボルンのような大都市には地中海周辺諸国やアジア諸国の出身者が集住する移民コミュニティが形成されるようになった。本発表では、こうした移民コミュニティを意識したシドニーの都市計画として、ダーリングハーバー（Darling Harbour）の再開発におけるチャイナタウンとライカード（Leichhardt）のイタリアンフォーラムに焦点を当て、エスニシティがこれらの都市計画にどのように表象されているかについてみていくことにする。

例会に関しては、発表者が大学院生の場合に限り、居住地と例会会場間の交通費に関し、主要都市間の交通費実額の半額を、1万円を極度額として、補助します。

7. 豪日交流基金助成・オーストラリア学会主催公開シンポジウム

／大学・大学院生のための特別公開講演会報告

有満保江・永野隆行

同志社大学公開シンポジウム（同志社大学人文科学研究所共催）

「人種主義、植民地主義、多文化主義のポリティクス オーストラリアと日本の経験」

6月27日（土）同志社大学新町キャンパスにて開催されました。司会は板垣竜太氏（同志社大学）が務めました。ガッサン・ハージ教授（メルボルン大学）は、「ホホワイト・マルチカルチュラルイズムの限界の植民地起源について」と題して報告し、2005年に起きたクロヌラ暴動を題材にしつつオーストラリア多文化主義にとっての「統治不能なもの」という問題を考察しました。テッサ・モーリス・スズキ教授（オーストラリア国立大学）は「日本の植民地主義、移民、外人恐怖症」と題した報告のなかで、現在の日本の移民、難民、外国人居住者を論じる場合、戦前の日本帝国主義の影響を見落とせないことを指摘しました。そして塩原良和准教授（慶應義塾大学）の「オーストラリアの『多文化主義』から見る、日本の『多文化共生』 変容する『選別／排除』の境界」では、オーストラリアにおけるミドルクラス・専門職移民の台頭がオーストラリア多文化主義にもたらした影響を考察しました。三氏とフロアとの討論も活発に行われました。

慶應義塾大学特別公開講演会（慶應義塾大学 GCOE-CGCS 共催）

講師としてディーキン大学のディヴィッド・ロウ教授をお招きし、7月15日（水）慶應義塾大学三田キャンパスで開催されました。ロウ教授は、今秋に新設されるアルフレッド・ディーキン研究所所長に就任する予定となっており、多忙ななかでの来日でした。ロウ教授は、オーストラリア外交の視点から冷戦下のアジアに焦点を当てた論文を数多く発表していますが、なかでも「コロンボ・プラン」の研究は内外で高い評価を受けており、現在はその立案者の一人であったパーシー・スペンダーに関する研究書の執筆を進めているとのことでした。

当日の講演は、「アジア太平洋におけるナショナリズム、脱植民地化、冷戦」と題して、第二次世界大戦後のアジア太平洋地域の国際関係を概観したものでした。大学生ならびに大学院生も多く参加することが予想されていたため、一定水準の専門性を維持しながら、歴史との向き合い方やグローバルな歴史の流れと、個々の地域や国家、さらにはそこに生きる人々が築く歴史との相互関係などについても触れられ、学生が関心を持てる内容のものとなりました。

ロウ教授による60分間の講演の後、杉田弘也氏（青山学院女子短期大学・神奈川大学）からはオーストラリア政治論の立場から、そして有満保江教授（同志社大学）からはロウ教授の歴史を描く際のアプローチに関して質問とコメントがありました。当日は一般の方々のほか、多くの大学院生や学生も出席し、盛会のうちに終了しました。司会は永野隆行准教授（獨協大学）が務めました。

同志社大学公開講演会

ディヴィッド・ロウ教授をお招きし、7月18日（土）に同志社大学今出川校地にて開催されました。司会は藤川隆男教授（大阪大学）が務めました。ロウ教授は、政治家が演説を行う場合、外交や政策決定のプロセスにおいて歴史に言及する方法がよくとられるが、歴史への言及が政治家の言動の正当性や権威付けに大きな影響力をもつがゆえに、政治や外交上の危機的状況において、歴史的知見がいかに重要であるかを論じました。コメンテーターは五十嵐正博教授（神戸大学大学院）および富澤理英子講師（同志社大学）が務めました。

なお、9月17日（木）に予定されていた同志社大学での公開講演会は、講演者クリストス・ツィオルカス氏の怪我のために中止となりました。これに代わる企画は別途お知らせする予定です。

全国研究大会 個別報告者募集

オーストラリア学会 2010 年度総会・全国研究大会は、6 月 12 日(土)13 日(日)の両日、福島大学で開催される予定です。(詳細は会報次号[2 月発行予定]でお知らせいたします。)

個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、11 月末日までに、学会事務局あて書面(メール可)にてお申し込みください(200 字程度の要旨を添付してください)。

8. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次号 23 号に掲載する論文の投稿は 8 月末日で締め切りしましたので、掲載は 24 号以降になります。詳細は、学会 Web サイト、もしくは 23 号掲載予定の「投稿要領」(2009 年 7 月 12 日一部改定)をご覧ください。

また第 12 号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは 2009 年 10 月 30 日(期日厳守)。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだ FD)をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-16 海洋船舶ビル 8 階 CANPAN センター内

ACNet オーストラリア学会事務局担当

Tel 03-5251-3967 Fax 03-3504-3909 E-mail ac056-asaj@canpan.org

投稿先が変更されましたのでご注意ください。

9. 地域研究会(関東)報告者募集

本学会地域研究会を新たに関東地区(東京)でも開催することを予定しております。第 1 回は 2010 年 3 月頃、東京で開催します。報告を希望される方は塩原良和(shiobara@law.keio.ac.jp)までご一報ください。

新刊書のご案内

『日豪経済関係の研究』遠山嘉博 著 日本評論社 2009 年 5 月刊行(価格:本体 6,500 円+税、ISBN:978-4-535-55524-2)

出版社 Web サイトより: 19 世紀後半から現在まで 130 余年に及びオーストラリアと日本の経済関係を丹念に追究し、相互の利益となる関係とは何かを展望する。

『労働と福祉国家の可能性:労働運動再生の国際比較』新川敏光・篠田徹 編著 ミネルヴァ書房 2009 年 4 月発行(価格:本体 3,800 円+税、ISBN:978-4-623-05455-8)

出版社 Web サイトより:現在全世界的に混迷する労働者の雇用・就業。その中で労務管理、労働市場政策の重要性は増している。本書では世界各国の労働運動における企業内・産業別組織の現状、社会的連帯を俯瞰し再生の道筋に福祉国家へのオルタナティブを探る。

「オーストラリアの労働運動・労使関係と福祉国家」(杉田弘也)ほか

Neville Meaney, *Australia and World Crisis, 1914-1923. A History of Australian Defence and Foreign Policy 1901-23: Volume 2* (Sydney: Sydney University Press, 2009)

出版社 Web サイト: <http://purl.library.usyd.edu.au/sup/9781920899172>

会員等より寄せられた新刊案内をご紹介します。

【諸届出/連絡先】〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-16 海洋船舶ビル 8 階 CANPAN センター内
AcNet オーストラリア学会事務局担当 Tel 03-5251-3967 Fax 03-3504-3909 E-mail ac056-asaj@canpan.org

【オーストラリア学会事務局】

〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付
:042-691-0011(代)/FAX:042-691-5899/E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp

会費振込先:00190-3-157063 加入口座名:オーストラリア学会

本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、ACNet 事務局担当までお送りください。[紙面の制約上、速やかに掲載できない場合がありますことをご了承ください。]なお書評欄に掲載を希望される場合は、学会事務局宛に献本願います。[編集担当:塩原良和(慶應義塾大学)]